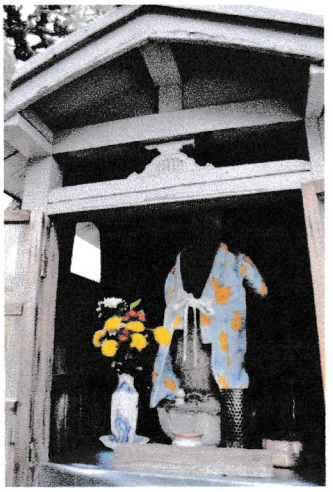
磁津通信

磁津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磁津南町2839
野田之一さん気付

今工事中の磁津東端河口の朝

子どもを守ってきた地蔵さん



磁津西町の小林忠一（ちゅういち）さんの門のところにキチンと立派な建屋に納まったお地蔵さんがあることはずっと以前から存じておりました。（右図）

過日、寒気が襲ってきた朝、そのお地蔵さんの中に入り、着せ替えをして冬支度をしてみえる女性がみえ、いっしょに拝見しました。それで詳しい事を聞きたくて後日、小林さん宅にお邪魔しました。忠一さんは二年半前お亡くなりになっていて、時折帰宅してみえる妻のきぬよさん(79)さんと娘の石田和泉さんを待っていろいろお聞きしました。

このお地蔵さんは忠一さんが幼い頃、兄弟になるはずだったお子さんが「水子」で亡くなられ、それを悲しんだ忠一さんのお母さん君子さんとお父さんが造られたのだそうです。抱いているのは赤ちゃん。赤ちゃんを抱くお地蔵さんというのは珍しいですが、子どもさんを亡くされたお母さんの辛さ、それを推し量ったご主人の思いやりが伝わってきます。信心が深くなければ、どの家でもできたわけではありません。

お地蔵さんは初めは磁津の墓地にあったそうです。それを長女が20歳の時の重い病気がきっかけで自宅に移築し、精念入れをして祭ったのはお告げがあったからでした。その後、きぬよさんの病気治癒や娘さん家族の交通事故の時なども「家の守り神」として親族の皆さんと家内安全を守ってきました。

それが今では小林さん宅の地蔵さんは「子どもを守るお地蔵さん」として地域のお守りとしても知られてきました。お世話はきぬよさんの妹の米利代（めりよ）さんたちが花や水を替えてみえます。先日地蔵さんの建屋に入って着替えをしてみえたのは実は米利代さんだったのです。

きぬよさんは、着替えの服はたくさんあるよといいます。お話はディケアや陽気なきぬよさんの日々、娘さん和泉さんの歌のうまい話、鯨船の踊り子をしたお孫さん2人の話と盛り上がりました。短い時間でしたがお地蔵さんが繋いでくれた広がりは明るく楽しいものでした。

《連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磁津環境学校情報室》